札幌
東高同窓会報

昭和55年8月
第8号
札幌東高等学校同窓会

明年の四月には母校はこんなスマートな姿に。

校舎改築移転を前に
（旧校舎との惜別）

北海道札幌東高等学校長
赤塚利國

同窓会員の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご支援を得て、昨年度から着工した校舎改築も、本年三月に第一期工事が完成し、四階建の白亜の校舎が真夏の陽光にまぶしく映えている。第二期工事も五月から始まり、建築資材がグランドの全面に運びこまれ、明年三月の完成をめざして工事は急ピッチに進捗している。

いよいよ明年三月の移転と共に、旧校舎ともお別れである。昭和二十八年に完成して以来二十七年間、多情多感な若者達を数多く送り出した木造の学舎は、今なつかしい想い出を抱きしめ、ひっそりと息づきながら終焉の時を待っている。風雨にさらされたくすんだ壁に、鳩が群をなす軒下に、そして黄金色に磨かれた廊下の片隅に、多くの卒業生が残した青春の哀歓が秘められている。

今年の学校祭は、例年より一ヶ月早く、一学期末の七月十八日から三日間行われた。校舎改築工事の為にグランドは使用できず、様々な制約があったが、旧校舎最後の学校祭ということで、例年より趣向をこらし、短い準備期間の中で創意工夫して華やかに実施された。

特に、本校自慢の中庭を中心会場として、緑の芝生との惜別の学校祭は、生徒個々の胸に様々な想い出を残したことであろう。春から秋にかけて、朝夕憩いの場として、語り合い、睦み合った中庭の芝生・ポプラや白樺の木陰は、本校に学んだ多くの同窓生にとって、常に回想のかなめであったろうと思われる。

冬の間、真白い雪におおわれていた芝生は、春の気配と共に緑の若芽が萌え出して、新入生を迎えた新しい一年が始まり、今年・来年と絶え間なく青春の一ページが創られて行った。

道内の高校でも珍らしく、本校の誇りであり貴重な財産である中庭が、今年限りで姿を変えてしまうことを思うと感無量なものがある。

明年三月以降、校地の南面に位置する新しい近代的な校舎を中心に東高校のすべては変貌して行く。しかし、この古い校舎と良き環境の中で形作られた先人達の精神的な尊い遺産は、何時までも後輩に受け継がれて行くことであろう。

私達教職員も生徒と共に七十余年の歴史と伝統をふまえ、「克己自疆」の校訓を基盤に、回想の世界にある感傷から脱皮して、二十一世紀を創造する新しい校風の樹立に努力したいものである。

「看板」ということ

職業九期　芦野　トシ

〈日本きもの文化協会　北海道支部長〉

同窓会顧問

つい先だってのこと、しごとの都合でお昼どきを少しすぎてから、めざすホテルのレストランのドアを押したとたん、赤いドレスのウェートレス嬢、「あのォ、いま中看板なんで、また四時からですから――」と。なるほど静かなわけ。それにしても、看板に中をつける呼び方ははじめてのこと。

一般に看板とは商人が職種や屋号、商品を表示するために、店先きに出す広告用の作り物のことを指す。わが国では八三三年（天長十年）に奈良は平城京の東西両市で店ごとに標（しるし）を立て、商品名を記したのが最初といわれている。

実用的に看板が現われたのは室町時代の中期頃からで、平和な桃山時代になると商業の発展とともに急に増加し、江戸時代ともなると金・銀箔や派手な彫刻で競い合うようになり、幕府はたびたび禁令を出して、看板は木地に墨書のみ、金具は銅製に限ると制限したという。

看板には(1)実物看板、(2)平面看板、(3)立体看板とわけられ、中でも(2)の平面看板がもっとも多くて、下げ看板、掛け看板、屋根看板建看板、別に芝居の名題のは立看板、ほかについ立て看板、立てかけ看板、建具看板、布を使った旗看板や幡看板、のれん看板、さらにちょうちんも仲間に入れてよいと思う。

看板の役割りは何よりもまず職業や商品を目立つようにするのが常識だろうが、時代劇のドラマの場合はむしろ人物名や屋号を呼ぶものが多いことから、人名、屋号を先きにする。時代風俗考証事典（林　美一著）によると「落ち合う場所は川崎宿の万福屋という旅籠（はたご）だ」といったセリフがあって、次にその旅籠の看板のアップというカットつなぎのような場合もある一例があげてある。

看板の表示のし方にも味わってみるべきものがいろいろある。大きさにもよろうが、一般には横長のものが多いようで、横文字を入れるのに都合がよいらしい。また、おすし屋さんなどでは家紋を染めたのれんをよく見かける。私の親しいおすし屋さんには芸の上から創作した私との比翼紋入りののれんがかけられている。

つねひごろ、何とはなしに見すごしている看板も、心をとめて調べてみるとなかなかおもしろいし、その時代のムードをかもし出す小道具でもある。

看板ですという言葉からいろいろ書いてきたが、看板娘という美しい表現から看板にいつわりあり、看板だおれというまずいものまで、よく使われる看板という言葉だが、無意識な、あるいは身勝手な言行不一致で自分という長年つちかってきた看板をカモフラージュしなければならないとしたら、さても貧しいことではないか。私の自分の道を進んで行くにあたっての日々のいましめとしたい。

母校懐旧

同窓会に想う

東高10期　高橋　正

〈札幌市東保健所勤務〉

今年の同窓会新会員（五十五年三月卒業生）は、三十期でありました。このことは、私達十期卒業生が母校である東高を卒業してから早や二十年を経過したことになります。今振り返って考えて見ますと二十年という年月は、就職・結婚・子育てなどのためか短かく感じられます。しかし、私達が卒業した後に生れた児が本年東高を卒業したことになり、また、同期生を見ても男性では会社を経営したり重要なポストに就いたりしておりますし、女性ではもう高校に入学しているお子様がいるなど、各々二十年という年月の長さを語るような実情にあります。

昨年の第70回同窓会総会では当番期として高女二十二期のおばさまと東高二十九期の弟達と共に何とか無事終了いたしましたが、かえりみますと、一昨年までの総会には私達十期の同期生は非協力的で殆んど出席していない状況にありました。来年は当番期であるということから、第六十九回総会には急きょ二十数名参加し、皆目見当のつかぬまま第七十回総会に向けて行動を開始したわけですが、困難なことが多く、特に広告を集めることに苦労いたしました。何とか成功裡に開催できましたことは皆様方同窓会会員の協力に拠るところが大きかったことと、ここにあらためて感謝を申し上げる次第であります。

さて、総会を終えていろいろ考えさせられたことがありますが、ここに二点ほど申し述べさせていただきます。まず第一に、総会出席者を卒業期別に見た場合、当番期中心に前後二年位が一番多い反面、卒業してから二・三年目から十数年にわたり殆んど出席がないことが残念でなりません。その理由は、各卒業期幹事の責任感の不足及びその幹事に対する諸先輩等同窓会役員の働きかけの不足ではないかと思います。（私達の期も同様でした）第二に総会開催に伴う諸経費調達のための広告依頼の件ですが、この業務は当番期の大きな負担になります。同窓会としても種々検討された結果かと思いますが、同窓会年会費の徴収方法の改革など何らかの抜本的な対策を必要とするのではないでしょうか。

高校を卒業して二十数年も経過してから総会に出て見て、なつかしい校友に逢うこともでき、昔話に話が咲き、また、校友が種々の職業に就いていることから現在の自分の仕事にプラスになることも少くないものと思われます。このように総会に出席することはすばらしいことがわかりますので、今後できるだけ同期はもちろんのこと、クラブ活動の先輩、後輩及び職場関係で知り得た校友に出席するよう呼びかけるつもりですが、同窓生全員が同じ気持になれば、私たちの同窓会も一層飛躍することは確実だと思います。

今後も盛大な同窓会総会を皆様の手で開催しようではありませんか。

母校改築

ア・ラ・カルト

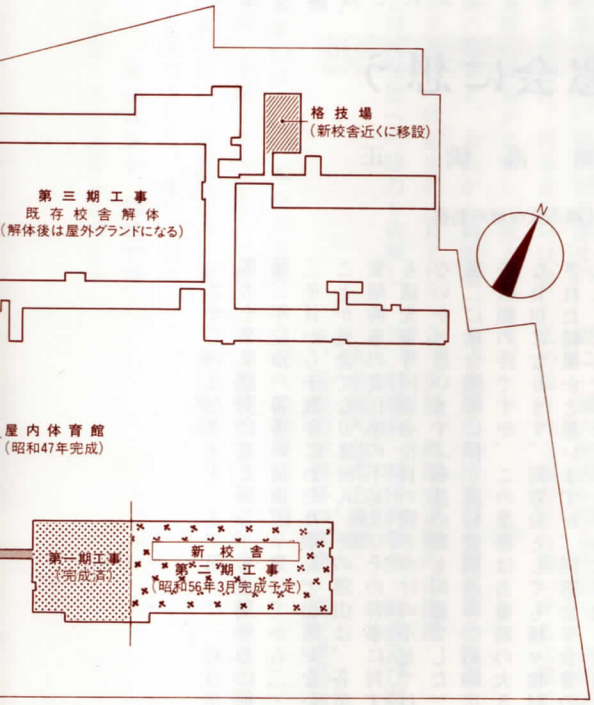
札幌市の中島公園は全市民のいこいの場として貴重な存在ですが、とくに私たち東高校同窓生、中でも東高六期までのOB、OGにとっては心のふるさとであるはずです。というのも、私たちの母校が今を去ること七十有余年前に中島公園の北東、いまの札幌パークホテルのある場所に呱々の声をあげたからです。私たちのなつかしい青春のふるさとだったわけです。

明治四十年五月一日、札幌区立女子職業学校という、たった三学級の学校がそこに開校されました。ついで、大正九年三月三十一日、札幌区立実科高等女学校と改称され、規模も十六学級となりました。二年後の大正十一年三月三十一日には札幌区立高等女学校と改称されて行きます。

昭和十二年の二月には忌まわしい火災に逢い、校舎は全焼してしまいます。しかし、当時の校長先生を中心として、全日、現在の校舎が一部完成し、なれ親しんだ中島公園から新しい天地に移転し、新しい校舎も昭和三十年九月十八日に全体が完成し現在に至るわけです。

この校舎も二十七年の星霜を数え、東高の四期から三十期までの数多い同窓生を育くんで来たわけですが、ご存知のとおり、昨年から校舎の改築工事が始まりました。第一期工事は今年の三月に完成第二期工事が進行中です。来年は外構工事、格技場移設、グラウンド整備などの第三期工事も行われることになっており、立派な校舎が新しい同窓生を生み続けることになります。

母校の校舎が新しくなるということは同窓生の私たちにとってうれしいことである反面、何となく淋しいことでもあります。そこで、来年早々には解体されて永遠に姿を消してしまう現校舎をいまいちどご覧いただくようおすすめするとともに、新しい校舎の概要を紙上でご紹介いたします。



■新校舎の内容

普通教室	30室
特別教室	生物教室、化学教室、物理教室、地学教室、音楽教室美術教室、書道教室、社会科教室、被服教室、調理教室、作法教室、職業教室、視聴覚教室
管理関係	校長室、事務室、職員室
その他	保健室、食堂、生徒相談指導室、会議室
暖房	セントラルヒーティング

や有志の方々の努力が実って、木の香も美しい新校舎が再建されます。当時、使われた木材の質の良さ、美しい姿と形などを見た札幌市民は「市立女学校は全道一の財産」（当時は道立でなく市立でした）と自慢したそうです。

戦後は学校制度が改革を重ねてゆきます。まず、昭和二十三年の四月一日に札幌市立第一高等学校と改称、二十五年四月一日には北海道札幌東高等学校となり、はじめて男女共学の時代を迎えます。

東高校になってすぐ、校舎を現在地の菊水に移転する計画が進められてゆきます。そして、昭和二十八年の十一月十六

■学校の敷地は
何と47,736m²（約14,465坪）もの広さです。

● その内訳は

校舎敷地	20,063m²
グラウンド敷地	23,256m²
その他の敷地	4,417m²

■新校舎の規模と面積
鉄筋コンクリート4階建

1階	2,496.48m²
2・3・4階	7,114.92m²

その他を含め延床面積は約 9,707m²です。

なお、屋内体育館は昭和47年に完成し、現在使用中のものをそのまま使います。

■総工費は3期合わせて15億 5,500万円という巨額で3期で次のようにかけられます。

第1期工事	約4億1,600万円
第2 〃	約9億3,100万円
第3 〃	約2億0,800万円

■各工期の工事内容は
第1期工事は校舎本屋の一部。
第2期工事は校舎の残り全部。
第3期工事は現校舎を解体撤去し、その跡地をグラウンドとして整備、さらに格技場の移設と外構工事など行なわれます。

■工事計画は
第1期工事（完成済み）
昭和54年6月29日着工
〃 55年3月24日完成
第2期工事（工事中）
昭和55年5月10日着工
〃 56年3月26日完成予定
第3期工事（予定）昭和56年度中

古都 奈良で 総会

関西支部

高女14期 黒崎喜代

昭和五十五年四月二十九日、第二十一回関西支部同窓会は、例年通りのまわり持ちで、今回は奈良で行われました。大阪、神戸、京都、奈良と四年目でございます。

二十年来支部長をなさいました前川デン先生のご奔走で、高女十五回近藤幸子さんが新しい支部長になられました。今年の総会は東高一本化後初めてなので、創立七十周年記念発行の会員名簿から関西方面在住会員をピックアップして案内状を発送しましたが、その数二百名。そのうち、住所不明で戻って来ましたのが七十二名（内高女二名）。欠席通知は高女が四十四名。東高が二十四名。当日出席者は高女会員二十三名、東高二名。先生は大正十三年四月から昭和四年二月までご在職の山田タカ（大橋）先生がますますお美しくお元気なお姿で大津からこの日を楽しみにお出かけ下さいました。会員の皆様もお変りなくお元気なお姿でお目にかかれて本当に嬉しうございました。

当日は晴天に恵まれ、奈良駅前から三笠温泉行きに乗りましたがわが同窓生で貸切りバスのようでした。途中、懐しの友と語りながら奈良の都はずれの三笠山を登って、会場へつくまでの眺望は絶景でした。

会場はホテル三笠温泉で、玄関脇にある大きな桜の老木は、今を盛りと美しく目が覚めるように咲いていて、私どもを歓迎するかのようでした。案内された室は階段を幾段も降りて、広いところで、先ず始める前に山田先生をお迎えして、記念撮影をすませてからそれぞれ着席しました。

近藤支部長の挨拶、支部の会則、役員、当番等について相談がありましたが、具体的な機構づくりは後日話し合うこととしました。

追々に東高卒の若い方達と交流を計り、盛会にしたい希望です。来年の当番は東高卒の若い方も加わったのですから、奈良の方々にまたお願いしますと満場一致決定いたしました。

はるばる札幌から参加して下さいました長尾先生から、本部の総会のこと、母校改築にともなう助成について報告がありました。

支部長の音頭で乾杯し、日本料理に楽しく舌鼓を打ちながら自己紹介にはいり、終ってから当番幹事が欠席者の通信を読みあげられたので一同ホロリとなっていますと、皆様減入っていらっしゃるからとおっしゃって、地主みち子幹事が喉をご披露されて民謡を何曲も歌って下さいました。なかには、お好きな方もいっしょに歌われてとても素晴らしい雰囲気でした。

皆で校歌を合唱し、三時頃会場を出て入口の立派な桜を背景に記念撮影して。帰えりのバスを待ちながら語るのもまた楽しいものです。

やがてバスに乗り奈良駅前で来年を約束してお別れしました。

関西支部 事務局
（支部長宅）近藤幸子（高女15）
（〇六）九五三―一六〇〇
（五三五）大阪市旭区新森六丁目四―三二

昭和54年度 東高同窓会 会務報告

昭和54年度の主な会務を報告致します。

一、昭和54年度総会及び懇親会

昭和54年8月23日、札幌パークホテルを会場に、会員550余名が出席し、恩師約30名をお迎えして開催されました。総会では、53年度会務報告、決算報告及び54年度事業計画、予算案を審議し、執行部提出の原案通り可決されました。

また役員の一部改選が行われ、副幹事長に東高5期渡辺貢一氏を選任しました。

二、第30・31回東高学校祭

昭和54年8月25・26の両日、第30回東高学校祭に例年どおり同窓会室を設け、伊藤　正先生(旧職員)はじめ同窓生6名のご協力を得て絵画の展示を行い、在校生や父母など多数の参観があり盛会でした。また、55年度の学校祭は開催期日が早まり、7月19・20日に行われ、同窓会室には、役員の在校時代の写真と昭和37年から今日までの主な出来事を掲載した新聞を展示し、生徒の関心を惹いていました。

三、常任幹事会・幹事会

本会の円滑な運営を図るために常任幹事会の整備をすすめ、本年度は、54年10月・11月、55年1月・6月の4回開催し、会務執行上必要な事項についての協議を行いました。また、幹事会は、総会提出議案の審議など、総会に向けて本年7月に開催し、総会運営に必要な事項についての審議と打ち合わせを行いました。

四、同窓会入会式

昭和55年3月8日、学校長及び関係教職員の列席を得て、第30回卒業生の同窓会入会式を挙行。同窓会からは会長はじめ多数の役員が出席し、新入会員へ記念品の贈呈と、会長から新幹事へ委嘱状を手渡し、同窓生の一員として、本会と母校発展への協力を依頼しました。

五、その他

以上の事業のほかに、本会の支部(関東・関西・函館)や同期会の活動に対する助成を行い、会員相互の一層の親睦推進を図りました。また、母校との関係では、東高後援会・環境整備後援会及び体育・文化後援会に本会から役員を送り、母校の教育環境の整備や教育活動の推進に協力して参りました。

なお、54年に着工された新校舎は、順調に工事が進行し、予定通り、55年中にほぼ校舎が完成、56年に校舎周辺の整備や格技場の移転などが行われます。本会としては、新校舎落成を記念し、母校への有意義な援助を企画中です。

昭和55年度 事業計画

昭和55年度の事業計画は、次の事項を中心に、ほぼ54年度の事業の継続と更に一層の充実を図る予定で、会員諸氏の益々のご協力をお願いする次第です。

1、会報の発行及び会員名簿の整備
2、支部・同期会活動への助成
3、幹事会・常任幹事会・総会及び新入会員入会式の運営
4、母校の学校祭や体育・文化活動などへの効果的支援
5、母校校舎改築に伴う必要業務の円滑な推進

同窓会事務局から

＊同期会開催には、同窓会からの助成金制度をご利用ください。事前にハガキにてお申出ください。(期名・代表者名・開催期日・振込銀行名を明記ください)※すべて銀行振込といたします。

＊会員で住所、電話、勤務先など変更の場合には、お忘れなくハガキでお知らせください。

＊年会費(一口…500円)は、母校のスポーツ・文化活動や学校祭ほかの助成をはじめ、各種事業運営費の貴重な財源として活用されるものです。ご面倒をおかけしますがご納入いただくようお願いいたします。

送金振込先　拓殖銀行・苗穂支店
普予No.275020
札幌東高校同窓会宛

＊会報のご希望、その他ご意見ご希望をお寄せください。

札幌東高同窓会事務局
003札幌市白石区菊水9条3丁目
〈札幌東高校内〉
☎011(822)5093・(831)6322
皆田・柳原先生

昭和54年度決算書並びに昭和55年度予算案

昭和54年度決算書

前年度繰越額1,776,517円
収入の部1,688,700円
支出の部2,083,115円
次年度繰越額1,382,102円

科目		摘要	決算額
収入の部	前年度繰越金		1,776,517円
	新入会員会費	453名×1,500円	679,500
	年会費	979名× 500円	489,500
	預金利息	普通預金預入利息	20,154
	雑収入	総会剰余金、寄付金ほか	499,546
	計		3,465,217
支出の部	事務手当	事務局手当及び交通費	130,000
	事務用品費	専用ロッカー購入ほか	50,550
	印刷費	封筒印刷	9,750
	通信費	郵便料	24,850
	旅費交通費	支部出張費	20,000
	慶弔費	献花、餞別等	60,150
	会議費	諸会議会場費等	204,325
	総会関係費	総会準備金	200,200
	会報発行費	会報第7号印刷	135,000
	学校祭関係費	学校祭参加費	131,340
	同期会等助成費	支部、同期会助成	170,350
	新会員関係費	記念品代	192,600
	体育文化助成費	在校生助成	50,000
	校舎移転積立金	特別会計へ繰入	700,000
	雑費	花束代	4,000
	予備費		0
	計		2,083,115
		差引残高	1,382,102

昭和55年度予算案

前年度繰越額 1,382,102円
収入の部 1,327,898円
支出の部 2,710,000円
差引残高 0円

科目		摘要	予算額
収入の部	前年度繰越金		1,382,102円
	新入会員会費	450名×1,500円	675,000
	年会費	900名× 500円	450,000
	預金利息		
	雑収入		202,898
	計		2,710,000
支出の部	事務手当	事務局手当及び交通費	150,000
	事務用品費	専用ロッカー購入予定	60,000
	印刷費		30,000
	通信費	会報発送ほか	60,000
	旅費交通費	支部出張費	150,000
	慶弔費	餞別ほか	80,000
	会議費	諸会議会場費ほか	250,000
	総会関係費	総会準備金	250,000
	会報発行費	会報第8号発行	170,000
	学校祭関係費	学校祭参加費	200,000
	同期会等助成費	支部、同期会助成	300,000
	新会員関係費	記念品贈呈	200,000
	体育文化助成費	在校生助成	100,000
	校舎移転積立金	55年度特別会計へ繰入	500,000
	雑費		50,000
	予備費		160,000
	計		2,710,000
		差引残高	0

◎注記
昭和55年度から会計年度を7月1日から翌年6月30日に変更致します。
但し、昭和55年度のみ、8月1日から6月30日までとします。

特別会計積立金〈信託預入〉

前年度繰越額 4,073,835円
本年度収益配当金 243,608円
一般会計より繰入額 700,000円
合計残高 5,017,443円

●函館支部だより

■函館支部総会 ＊S55・2・24(日)開催
会場 入川 松風町五の七
当番幹事 〈東九〉芝木勝久
〈東十〉平中利明
出席者 恩師 浅見祐治先生
〃 大森好男先生
会員 二十五名

☆支部登録会員数75名

今年はじめて東高卒の若い幹事さんでしたが、自己紹介、記念撮影、校歌の合唱、福引き、カラオケ、さらには先生方の歌も飛び出し、時の経つのも忘れるほど楽しい総会でした。来年も引続き東高卒の方が幹事を引受けられ大張り切りです。

●事務局〈会長宅〉矢野滋子（高女23）
☎0138㉒9038 函館市元町一番十号

●東京支部だより

昭和五十五年度の東京支部総会は左記により開催されます。
日時 九月十三日午後三時半
会場 新宿区市ヶ谷本村町四二市ヶ谷会館
☎〇三―二六八―〇一一一
会費 五千円

昨年の総会は同じ市ヶ谷会館で九月九日(日)午後開かれました。幹事は高女十五期と東高三期が当たり、恩師の山本好美先生を中心に百名以上の出席で楽しい集いとなりました。東高三期の在札グループからこの日のために送られた道産名品の数々をクイズと抽せんで配り、大へん好評でした。ただ残念なのは東高十三期以後の会員の名簿が不備なため、呼びかけることができずにいることです。若い会員の方々の積極的な参加をお待ちしています。

●事務局(仮)…工藤恒美（東高二期）
東京都豊島区長崎六―九―六
☎〇三―九五八―五九二四

〝東高だより〟から

私たち同窓生にとって、良きにつけ悪しきにつけ、やはり気になるのは母校のこと。しかし、現在の東高のことを知る機会になかなか恵まれないのが実情です。そこで、〝東高だより〟誌から在校生の進路状況や、今年度のクラブ活動のもようを抜すいしてご紹介いたします。

卒業生の進路状況

表Ⅰは今年の二、三年生の進学志望状況であるが、国公立大学志望が圧倒的に多い。そのうち道内の国公立大学志望校は表Ⅱの通りであるが、現・浪の占有率では、これまで浪人有利の北大のほか、昨年度の入試では浪人有利が明確となった小樽商大、帯広畜産大、特に北大にあっては道外合格者が49％と約半数を占めるなど厳しい状況にある。

しかし、本校にあっては北大合格に占める現・浪の割合は年を追って現役有利の傾向を著しく見せており、三年生に期待されるところすこぶる大きいのである。

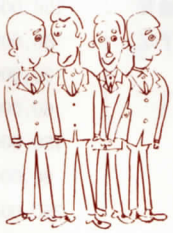
一方弘前大をはじめとして道外の国公立大学志望も増えているが、それぞれの地域の精鋭が集中する訳であり、安易な考えでの受験は失敗を重ねる結果になる。

また、私立大学・短期大学志望についてみると道内については表Ⅲの通りであるが、道外では青山学院大、明治大、早稲田大など有名私大も多い。

これらは国公立大学との併願でかなりの難化が予想される。国公立大学との共通科目で受験できる志望校を選ばなければならないなど、難しい面があるが、国公立大学の二次を上回る受験準備は是非とも必要である。先にも記したように国公立大学に失敗したら私立大にしようという考えは適用しない。

いずれにせよ、志望する大学には「絶対に入るのだ」、「必ず入ってみせる」という気迫を最後まで持ち続けて頑張ることが大切である。

なお、就職については四月の調査では第一志望とするものが三年生10名、二年生5名であるが、例年二十数名が国家・地方公務員、一般企業等へとかなり高い競争率を突破して合格している。この場合も毎日の授業に真剣に取り組んで地道に努力している者が必ずよい結果を得ていることも銘記しておかねばならない。



表Ⅰ　第3・2学年進学志望内訳（第1志望）55.4.28現在

		国公立大		私立大		短大		各種学校		計		文系	理系
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
3年	志望校未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	261	170
	志望校確定	250	84	23	24	0	32	7	11	280	156		
	計	334		47		32		18		431			
2年	志望校未定	16	12	0	3	0	0	0	0	16	15	252	161
	志望校確定	220	77	14	15	0	26	2	7	236	125		
	計	325		32		26		9		392			

表Ⅱ　第3・2学年道内国公立大学志望内訳（第1志望・弘前大を含む）55.4.28現在

	北大			小樽商大			道教育大			室工大			北見工大			帯広畜大			札医大			旭医大			弘前大		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
3年	97	17	114	19	4	23	49	51	100	45	0	45	2	0	2	3	0	3	5	0	5	0	0	0	5	4	9
2年	107	19	126	16	4	20	33	46	79	39	1	40	1	0	1	4	1	5	2	0	2	1	0	1	6	0	6

表Ⅲ　第3・2学年道内主要私立大・短大志望内訳（第1志望）55.4.28現在

	北海学園大			道薬科大			東日本大			藤女子大			北星大			酪農大			藤女短大			道女武短蔵大			天子使短女大			大谷短大			北星短大		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
3年	2	0	2	0	1	1	1	0	1	0	15	15	0	1	1	1	0	1	0	23	23	0	3	6	0	2	2	0	2	2	0	0	0
2年	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	9	9	1	0	1	0	0	0	0	18	18	0	1	1	0	1	1	0	4	4	0	2	2

クラブ活動

☆札幌地区春季高校大会

バドミントン
男子団体　二位
女子団体　二位
男子ダブルス三位
（相馬　悟君
佐藤清彦君）
男子シングルス　三位
（紺野雅裕君）

☆高体連札幌地区大会

バドミントン
男子団体　三位
硬式テニス
男子団体　三位
男子ダブルス三位
（藤原俊和君
山崎尚志君）
同　三位
（小林　和宏君
久々津直哉君）

☆高体連全道大会

硬式テニス
男子ダブルス　三位
（久々津直哉君
小林　和宏君）

☆校内放送発表大会石狩地区予選

ラジオ番組（自由）
東高放送局　六位

あとがき

今年度の会報をお届けします。この会報にご寄稿下さいました方々にあらためてお礼申しあげます。